

# 過疎地域におけるコミュニティカフェの 外出促進効果に関する実証的研究

Experimental Study of Community Café for Encouragement of Going Out in Rural Area

|               |      |                           |
|---------------|------|---------------------------|
| 北海道大学大学院工学院   | ○学生員 | 山崎康平 (Kohei Yamazaki)     |
| 北海道大学大学院工学研究院 | 正 員  | 岸 邦宏 (Kunihiro Kishi)     |
| 日本データーサービス    | 正 員  | 東本靖史 (Yasushi Higasimoto) |
| 北海道大学工学部      | 学生員  | 尾崎光政 (Mitsumasa Ozaki)    |

## 1. 本研究の背景と目的

人口減少、高齢化が進む過疎地域において、どのようにして公共交通を維持するかが問われて久しくなっている。多くの過疎地域で、デマンドバスや乗合タクシーなど需要応答型公共交通の導入が進められているが、便数が少ないことによる利便性の向上をどうするかが課題となっている。

また、このような地域では中心市街地の活性化も課題となっており、多くの地域住民が集まり、交流できる場所が必要とされている。そこで近年は地域の交流拠点としてコミュニティカフェが注目されている。

筆者らは、これまで便数が少なく帰りのバスの待ち時間を有意義に過ごしてもらふ視点で、待合所としてのコミュニティカフェが有効に機能することを明らかにしてきた<sup>1)</sup>。

一方、中心市街地活性化の視点から、魅力あるコミュニティカフェがあることによって、住民の外出回数が増加し、公共交通と一体化したまちづくりに寄与する可能性があると考え、意識調査を行った<sup>2)</sup>。

そこで本研究は、浦幌町を対象地域としてコミュニティカフェの実証実験を行い、バスの待合所の機能だけでなく、外出促進効果に寄与するかを明らかにすることを目的とする。

## 2. コミュニティカフェの概要

地域コミュニティの機能の低下、住民同士の関わりの希薄化や地域への愛着・帰属意識の低下が危惧されている今日、サークルや老人クラブなど特定の目的による「つながり」だけでなく、新たなコミュニティを生むようなさまざまな人が交流する場が必要とされている。そこで、新たなつながりを生み出す場所としてコミュニティカフェが注目されている。

コミュニティカフェでは、地域社会のなかで住民の交流を促して、気軽に集まることができる場所として、地域ならではの特色や集まる人々に合わせた様々な催しが行われている。コミュニティカフェの実態に関する調査では、全国のコミュニティカフェの運営目的で割合が高いものは、地域活性化や地域貢献、次いで高齢者や子供の福祉関連となっている。イベントなどを通じて来場者の間につながりを創り出している。

## 3. 研究対象地域の概要

本研究では北海道十勝郡浦幌町(図-1)を対象として、コ

ミュニティカフェの実証実験を行った。

浦幌町の人口は 5480 人、世帯数は 2415 戸となっている(平成 24 年 12 月 31 日時点)。町は南北に長く形成されており、中心市街地は南の JR 浦幌駅周辺に位置する。

浦幌町の高齢化率は 33.5%と非常に高く、今後も高齢化の進行によって、公共交通しか移動手段のない住民の増加が見込まれる。しかし、平成 23 年に特急すずらん号が廃止された以降、浦幌町には路線バスが走っていない。現在は浦幌町市街地と本別町の町立病院を結ぶ本別・浦幌生活維持路線バスや郊外部の住民を市街地の病院へ運ぶ患者輸送バス、留真温泉無料バス、スクールバスが運行しているが、いずれも利用者が限定されることや、利便性が低いことが課題となっている。

このような中、浦幌町では平成 25 年に「浦幌町生活交通ネットワーク計画協議会」が設立され、同年 10 月 21 日から 11 月 20 日の一か月間、浦幌町市街地を循環するコミュニティバスと郊外を走る予約運行型バスの試験運行を行った。本研究では試験運行に合わせて、コミュニティカフェの実証実験を行った。



図-1 浦幌町の位置

## 4. コミュニティカフェ実証実験の概要

本研究では、平成 25 年 11 月 1 日から 20 日までの浦幌町中心市街地まで、コミュニティカフェの実証実験を行った。場所は 11 月 1 日から 10 日までがスーパーマーケットのフクハラ、11 月 11 日から 20 日までが図書館のらぼろ 21 という 2 ヶ所となっている。いずれの設置場所も浦幌町の中心市街地に位置している(図-2)。

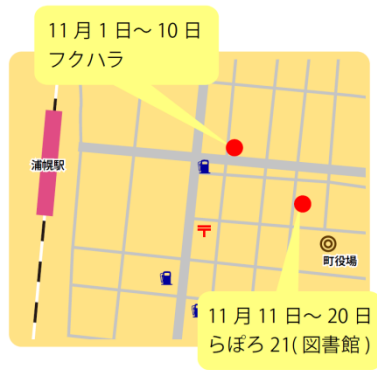


図2 コミュニティカフェ設置場所

コミュニティカフェの開設にあたり、浦幌町全域に配布される広報誌による周知を行った後に実証実験を行った。また開催期間中に浦幌小学校と中学校へ再度周知を図った。10月21日から試験運行している市街地循環バスであるコミュニティバスや郊外を走る予約運行型バスの待ち時間を過ごす場所としてだけでなく、地域住民が気軽に立ち寄ることができることを考え、地域の交流拠点としておしゃべりをしながら過ごすことができるように、飲み物や茶菓子の無料の提供を行った。また子どもの来場もあったため、学校の宿題の手助けやトランプなどの娯楽道具を用意した。知人同士だけでなく、調査員である大学生や小学生、中学生などの広い世代間交流を図った(図3、図4)。



図3 フクハラでのコミュニティカフェの様子



図4 図書館でのコミュニティカフェの様子

## 5. コミュニティカフェの利用実態

### 5.1 コミュニティカフェ来場者

表-2に期間中、コミュニティカフェへ来場した人数を大人と子ども別に示す。ここで大人と子どもの区別としては、中学生

以下を子ども、高校生以上を大人とする。

表-2 世代別来場者数

|     | フクハラ<br>11月1～10日 | 図書館<br>11月11～20日 | 合計  |
|-----|------------------|------------------|-----|
| 大人  | 44               | 53               | 97  |
| 子ども | 33               | 94               | 127 |

合計来場者数は224人となっている。図書館の合計来場者が多い理由として、小学校、中学校には11月12日に再度周知を行ったため子どもの来場者が増え、さらに口コミによる拡がりのため来場者数が増加したことが理由として考えられる。

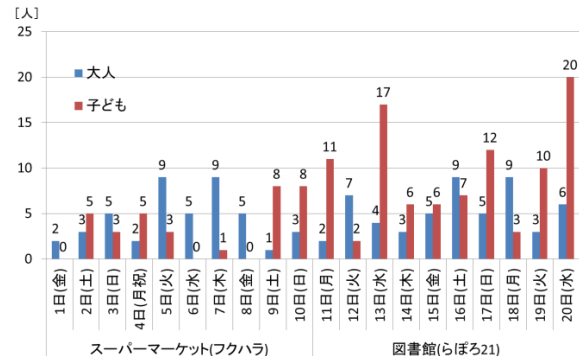


図5 日別来場者数推移

図5にコミュニティカフェへ来場した人数の日別の推移を示す。大人の日別来場傾向としては主に平日に来場する傾向がみられる。平日に市街地へ出て用事を済ませることが多いと考えられる。

子どもの推移としては学校帰りによるため、平日の来場が多くなっているが、休日にも近所からコミュニティカフェへ訪れる形がみられる。また、集団で来ることが多く、日別の変動が大きくなる傾向がある。

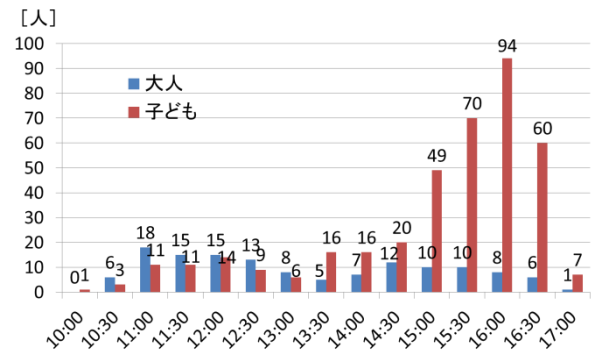


図6 時間別来場者数推移

各時間で何人コミュニティカフェに滞在していたかを図6に示す。大人が滞在するのは主に午前中であることがわかり、子どもは小学校や中学校が終わった後に来るため、15時以降に滞在することが多い。大人と子どもの滞在時間のピークが違うことがわかった。

また平均滞在時間は大人が36分、子どもが74分となった。大人は買い物など市街地などの用事を済ませた後に、ある程度の

時間を決めて滞在する傾向が見られた。子どもは学校帰りに寄り、終了の時間まで滞在することが多く、平均滞在時間が長くなっている。

## 5.2 コミュニティカフェ来場者の個人属性

図-7に来場者の世代別の男女比を示す。

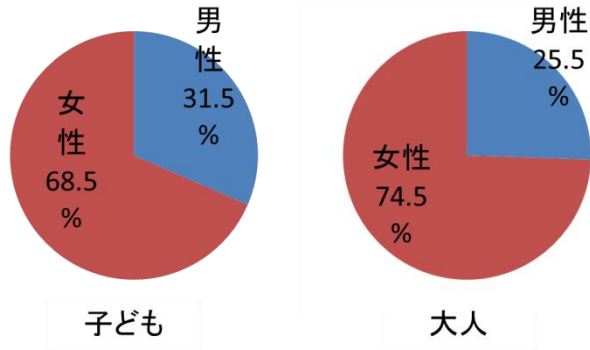


図-7 来場者の世代別男女比

来場者の年代については次の図-8のようにになっている。

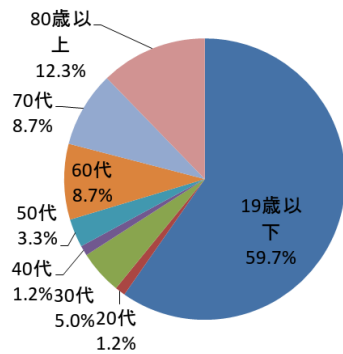


図-8 来場者の年代

次に来場者の居住地域の割合(図-9)を見ると、65%が市街地の住民であることがわかる。35%の来場者が郊外部に住んでいる点も重要である。

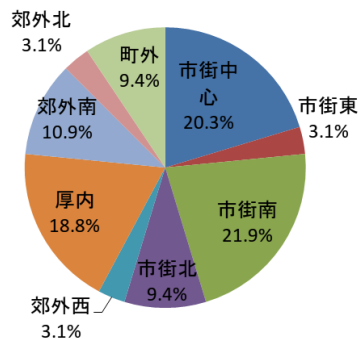


図-9 来場者の居住地域

開催期間中には来場者に調査票の配布を行った。調査票の回答者は144名となっており、大人の回答者が86名、子どもの回答者が58名となっている。

## 5.3 来場時の利用交通手段

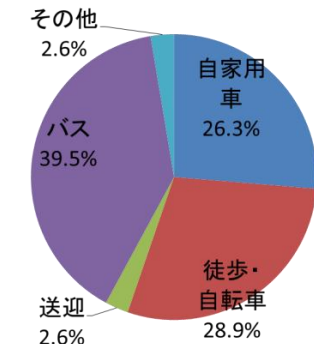


図-10 来場時利用交通手段(大人)

図-10にコミュニティカフェへ来場するのに使用した交通手段について示した。自家用車の利用はフクハラでの期間中に、車で買い物に来た客がついでに利用したため多くなっている。また、市街地の住民においても、コミュニティカフェから近くに住んでいる場合は、徒歩や自転車での来場が多くなっている。

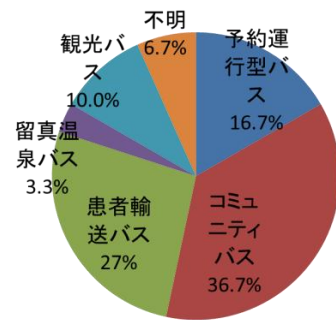


図-11 利用したバスの内訳(大人)

バスを利用してコミュニティカフェへ来場した人が一番多いことがわかる。利用したバスの内訳を図-11に示した。コミュニティバスを利用した人だけでなく、予約運行型バスや患者輸送バスを利用したの来場も見られた。その2つのバスは郊外部から来ており、待ち時間が発生し時間を過ごすために、コミュニティカフェへ来場していた。

## 5.4 コミュニティカフェ内での行動

来場者のコミュニティカフェでの話し相手について図-12に示す。

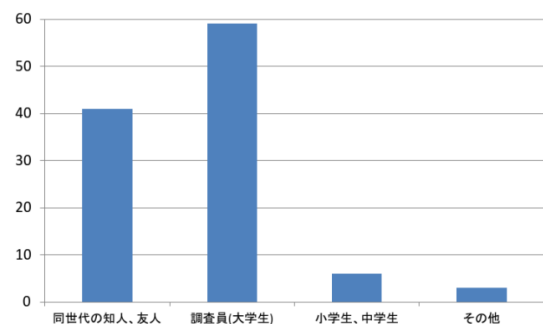


図-12 来場者のコミュニティカフェ内での話し相手

観察形式による来場者の会話相手について図-12に示す。一緒に訪れたり、偶然同じ時間帯にコミュニティカフェに居た知人との会話や、運営側である我々大学生が主な会話相手となっている。

## 6 コミュニティカフェ実証実験の評価

### 6.1 コミュニティカフェの満足度

退出する前にアンケートでコミュニティカフェの満足度をコミュニティカフェは楽しめたか、という形で聞いた。その結果を図-13に示す。とても楽しめた、少し楽しめたといった肯定的な回答が多くなっており、コミュニティカフェに居た時間を有意義に過ごせたのではないかと考えられる。

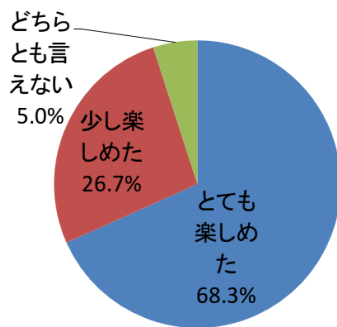


図-13 コミュニティカフェの満足度

### 6.2 高齢者のコミュニティカフェによる外出促進効果

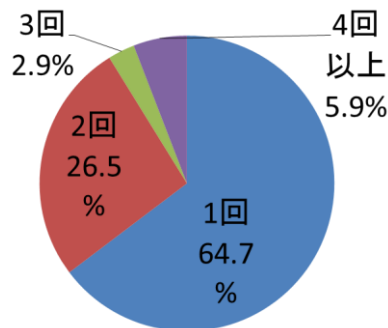


図-14 コミュニティカフェ来場回数

図-14 にはコミュニティカフェの来場回数を示した。この図より高齢者の来場者の 35%が複数回利用しており、中には 10 回以上利用した方もいる。

その方は現在 85 歳以上であり、コミュニティカフェを開業をした中心市街地に住んでいる。普段の外出目的は図書館に本を借りに行くことがほとんどであり、それ以外の目的での外出はほとんどない。ところがコミュニティカフェの開業期間中、図書館で開催した 11 月 11 から 20 日はほぼ毎日来場するようになった。このことから普段の外出目的である図書館へ行くという目的以外に、コミュニティカフェに行く新たな外出目的を作り出すことができたと言える。

もう一つの外出促進の例として、厚内地区という郊外部に住む町民を挙げる。郊外部から浦幌市街地へ出てくる交通手段として、患者輸送バスと郊外を走る予約運行型バスの 2 つが存在する。この方は 4 回来場しており、1 回目は患者輸送バスによって病院の帰りに寄っており、2 回目以降は予約運行型バスの利用により来場している。このことから普段利用している患者輸送バスだけでなく、今回試験運行しているバスを利用したの来場であり、公共交通機関とコミュニティカフェの連携による、外出促進効果だと考えられる。

### 6.3 患者輸送バス利用者におけるコミュニティカフェの役割

郊外部から来る患者輸送バスを利用して通院後にコミュニティカフェに来場した高齢者は 8 人おり、全員が病院へ行きフクラハで買い物を済ませた後にコミュニティカフェで空いた時間を過ごすという行動をとっている。コミュニティカフェで平均の滞在時間にして 41 分過ごした後に、患者輸送バスの時間が近づいてきたら、バス停となっている薬局へ行くという行動も全て一緒になっている。

このことから、コミュニティカフェが郊外部の住民にとって、市街地で買い物や通院の用事を済ませた後、帰りの患者輸送バスの時間までの空いた時間を補完する働きが見られた。

## 7. おわりに

本研究の実験では、コミュニティカフェに複数回来場した高齢者は 46 人中 15 人いた。実際に得られた外出促進効果は、15 人中 2 人となった。個人の来場回数の増加や、郊外部の住民の普段利用している公共交通手段に加えて、新たな公共交通手段の利用によるコミュニティカフェへ来場するという、2 つの点からその効果を観測することができ、コミュニティカフェが住民の外出を促進する効果を持った新たな外出目的となり得ることが示された。

また、患者輸送バスのような利用者が限定される交通手段は、利用者が市街地でとる交通行動も似てくる。市街地で用事を済ませた後に帰りのバスまでの空き時間が長くなり、その時間を過ごすためにコミュニティカフェの利用が見込める。

今後の課題として、コミュニティカフェが高齢者の外出促進効果に寄与し、それを維持するために、コミュニティカフェ内のイベントをはじめとした交流を促すための活動の内容について考えなければならない。

## 参考文献

- 1) Kunihiro KISHI, Hiroshi TAKADA, Yasushi HIGASHIMOTO: Evaluation of Community Café's Utility for Public Transportation Use in a Local Community in Japan, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.10
- 2) 山崎康平、岸邦宏:「過疎地域における外出促進のためのコミュニティカフェの機能に関する研究」、土木計画学研究・講演集、Vol.48、CD-ROM、2013